

令和2年度 県立海洋高等学校自己評価表

目指す学校像 教育基本法及び本県教育の目標の示すところにより、豊かな人間性と人格の完成を目指し、社会の発展に貢献し得る、心身ともに健全な海洋技術者を育成する。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>海洋高校生として身につけるべき知識と技能の確実な定着を期して、授業時間の確保と教え方に工夫を図った。一方で言語力の育成が十分でない生徒も存在しており、言語活動を充実させる取り組みが必要である。</p> <p>教科によっては横断的な教育が実施されているが、学校教育目標をふまえた資質・能力の向上を目指し、カリキュラムマネジメントを実施する必要である。</p> <p>地域に信頼され、愛される地域産業の担い手の育成を目指し、身だしなみの指導や遅刻者等に対する出席状況改善の取組により、基本的な生活習慣は定着しつつある。更なる好転のために継続的な指導をしていくことが必要である。進路については地域関連企業と連携した教育を推進し、就職する生徒の約5割が水産・海洋関連産業へ就く状況である。進路実現に向けたなお一層の動機付けを行う必要がある。</p> <p>大型実習船鹿島丸を活用して、最新で幅広く実践的な漁業技術や航海及び機関に関する知識・技能の修得を目指し、充実した実習船教育を推進することが求められる。</p>	1 教育の質の保証	(1) 生徒一人ひとりの成長を願い、日常における生徒理解と生徒観察に努める。 (2) 生徒の学校生活への充実度や達成感を高める。 (3) 生徒の自立を促す「自発的な学び」の指導の充実を図る。(自己指導能力の育成) (4) 生徒個々の「良さ」を伸ばして、生徒全員を進級及び卒業へと導く。 (5) いじめや体罰のない「安心・安全な学校」を目指す。(生徒の心のケアの充実) (6) 全職員が品格を保って勤務する。(コンプライアンスの遵守・学校の信頼高揚) (7) 現行教育課程の評価・検証(全学年) (8) 新学習指導要領に基づき、新教育課程の策定 (9) 学校の将来構想及び学校グランドデザインの検討 (10) 他校や他の機関・団体との連携 (11) 働き方改革を推進する。一部の教員に仕事が集中することを防ぎ、チームとしての取り組みを強化し、教育の質を確保できるようにする。	A
	2 地域に信頼され、愛される地域産業の担い手の育成	(1) 魅力ある進路先の新規開拓(企業への就職並びに大学への進学等) (2) 皆勤者及び精勤者を増やす。(家庭と密に連携し、欠席・遅刻を減らす) (3) 関係機関との連携(中学校・児童相談所・市町村福祉事務所・病院・警察等) (4) 挨拶・返事・身だしなみ・5分前行動の指導・支援の充実 (5) 地域の企業実習・みんプロ・地元イベント・ボランティア活動への参加の推進 (6) 学校ホームページや学校説明会等の広報活動の改善・充実 (7) 全学科の志願者数の確保及び増加(定期的な中学校訪問) (8) 地域連携の推進(那珂湊漁港・ひたちなか海浜鉄道・ドゥナイトマーケット等)	A
	3 生徒一人ひとりの学習指導の充実	(1) 授業時間の確保と授業の改善(目標の明確化・評価の改善・言語活動の充実) (2) 生徒の学習意欲の向上(各種資格検定への挑戦、体験学習等の学習機会の確保) (3) 校内環境の整備(掲示物・展示物の改善、資料室の設置等) (4) 職員間の生徒の情報共有の促進(各科・各学年・各部・各教科・各部活動等)	A

別紙様式 2 (高)

		(5) 「道徳プラス」授業実践及び主権者教育、年金教育への対応 (6) キャリアパスポートの活用・プレゼンテーションの実施		
	4 開催イベント等の成功	(1) 課題研究発表会の成功(地域の小・中学校への広報) (2) 鹿島丸の広報活動の促進 (3) 実習棟の設計及び学習環境整備計画の促進 (4) 中学校への出前授業の促進 (5) 海洋祭の成功		B
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
教科指導	海洋技術者に必要な基本的技能や知識の定着を図り、教育の質を保証する。	カリキュラムマネジメントを実施しながら、水産・海洋に関する内容と各教科の指導を横断的に実施し、生徒が興味・関心を抱き、充実度や達成感を高められるようにする。	A	言語活動の充実を図るために、更に工夫をしていきたい。
		各教科において記録、要約、説明、論述等を取り入れた授業を展開し、言語活動を充実させるとともに、自立を促す「学び」の指導の充実を図る。	B	
国語	生徒の実態に応じた授業を実施し、希望進路の実現に必要な基礎的学力を養成する。	教科書や副教材を使用し、漢字・語彙力を育成する。	A	文章を論理的に読み、読解力を深める工夫をする。
		作文やスピーチ指導を通し、自己表現力を高める。	A	
		様々な文章にふれ、読解力を深める。	B	
		希望進路の実現を目指し、授業内容を工夫する。	A	
地理歴史	発言の機会を多く設定し、個々の考えやまとめた内容を説明・表現できるようにする。日本の文化を愛し、世界における日本の伝統・文化に関心を深め内容に触れる。	生徒の興味・関心が高まるように授業を工夫する。	A	言語活動の充実を図るとともに、関心をひくような授業の工夫をしていきたい。
		一人一人の学習意欲を向上させ、発言の機会を増やし、言語活動の充実した授業を展開する。	B	
		小テストなどを定期的に行い、知識の定着を図る。	A	
公民	調べ学習を取り入れ、グループ討論・プレゼンテーションの場を設定し、人前での発言やまとめる力・話を聞く態度を養う。	自ら取り組んだ課題についてまとめた一つのものを仕上げ、生徒に達成感・成就感を持たせる。	B	言語活動の充実を図るとともに、関心をひくような授業の工夫をしていきたい。 主権者教育の充実につながる授業をしていきたい。
		身近な問題・話題に着目し、生徒の意見を広く聞く。	A	
	政治に関心を持たせ、選挙に直接関わる国民としての心構えを知る。	模擬選挙の体験や国会中継を見ることで、世の中の動きを見聞する。	A	
数学	対話的な活動を取り入れ、生徒に達成感を与える授業を展開する。	言語活動を重視し、積極的な授業への参加を図る。	B	言語活動による対話的な学びを更に重視し、活発な学習にしていきたい。
		進路実現のために検討を重ね、幅広い内容の学習を実施する。	A	
	生徒の基礎学力の向上を図り、航海算法の基礎を修得させる。	「何が必要か」を正確に把握し、目標を設定する。	A	
		海洋に関係する内容の指導を積極的に実施する。	A	
理科	生徒の実態に応じた授業内容や教材	水産・海洋に関係する内容を取り入れていき、生徒が理解し、興味・関心が高められる授業	A	言語活動の充実とともに、水

別紙様式 2 (高)

	の工夫を図るとともに、水産・海洋分野に関連づけた授業も実施する。	を工夫する。 小テストやワークシートで生徒の理解度を分析し、授業や評価に反映させていく。 科学的なものの見方を育てていくとともに、生徒が考えをまとめたり、表現する言語活動を重視した授業を行う。	A A B	A	産・海洋に関する内容と教科横断的な学習が充実するように工夫していきたい。
保健体育	基礎体力の向上を図ることができる資質や能力を育てる。	生涯スポーツを意識した種目選択を行い、生徒のニーズに対して応える。	B	B	クラス間で生徒への指導に差が生じてしまったので、それを解消したい。 体育科としての徹底事項を確立していく。
		チーム編成をする際の能力の均等化を考慮し、楽しく活動ができるようにする。	A		
		スポーツランキングを積極的に取り入れ、親しみながら基礎体力の向上を目指す。	B		
	生涯を通じてスポーツを継続していくための基礎知識を身につけさせる。	能力に応じ、簡易ルールを工夫しながら、誰でもが楽しめるようにする。	A		
		個々の役割分担を明確にすることにより責任ある行動を促す。	B		
		設備や用具の安全性を考慮し、適切な使用方法を指導する。	A		
生涯を通じて自らの健康を適切に管理する能力を育てる。	内容を精選し、全ての人の健康を守るために必要な知識を重点的に学習させる。	B			
	身近な問題を取り上げ、体験的学習を充実することにより実践生活に活かせるようにする。	B			
芸術	書道を通じ、日本の伝統文化に興味・関心を持たせ、生活の中に役立たせる。	硬筆は、レッスン帳やプリントを用い、基礎から実用書まで指導し、生活に役立つようにさせる。	B	B	大筆の製作が主になっているので、細字に力を入れ、実用書まで書かせたい
		毛筆は、個々の能力に合わせ、基礎から創作まで指導し、書の楽しさを感じさせる。	B		
外国語	水産系高校生として知っておきたい知識の習得を目指す。	近海の魚の名前や船に関する知識の習得を目的とした授業を取り入れ、定期考査へも反映させる。	A	A	英語に慣れ、親しみやすくなるように授業以外でも英語を使うようにし、英語は記号ではなく言語だということを意識させる。
	生徒の実態に応じた授業を展開し、基礎学力の定着を図る。	生徒の習熟度に合わせ、基礎的な内容の学び直しを目的とした授業を行い、併せて、意欲のある生徒には英語検定を促す。	A		
	コミュニケーション能力の育成を図る。	ALT との TT により実践的なコミュニケーション能力を育てる。 クラスルームイングリッシュを使い、日常から英語に慣れさせる。	A A		
家庭	自分自身の自立と地域の共生を目指す。	家庭や地域の生活に関心を持たせ、生活の充実・向上を図る。	B	A	家庭の生活の充実・向上を図り、日々の生活に結びつける。
		実習を通して、基礎的・基本的な技術を身につけさせると同時に、衣・食・住について生きる上で必要な知識を身につけさせる。	A		
		学習を通じて領域に拘わらず、水産に関する内容を扱い、日々の生活に結びつける。	A		
水産	専門教科に対する興味・関心・学習意欲を高める。	実習や水産・海洋に関する技術と関連させる等の工夫により、水産・海洋技術者に求められる知識・技能の修得に向けて、学習意欲を高める。	A	A	コロナ禍により企業実習がほとんど実施できなかった。鹿島丸の乗船実習も不十分であった。来年度は生徒の安全性を確保しながら多くの実習ができるようにしたい。
		水産・海洋関連企業について紹介や、企業実習の実施により、就業意欲を高めるとともに、学習意欲を向上させる。	—		
	個々の適正に応じた専門指導を総合的に行う。	資格取得の奨励や、地域と連携した教育活動の展開等を通して、生徒の適正と将来を見据えた総合的な指導を実施する。	A		
教務	生徒の学習意欲の向上を目指した授業の展開。	目標を明確化し、生徒が達成感を得られる授業を実施する。そのために必要な授業時間を確保すると共に、各種資格検定への挑戦を促す。	B		ICT 活用のための研修会に参加し、全教員が ICT を活用

別紙様式2 (高)

	教育の質を保証できる授業の確立。	生徒の「良さ」を評価する授業を実践する。	A	A	<p>した授業を実施できる環境を整備させたい。</p> <p>図書委員会は今年度水戸地区の当番校であったが、コロナ禍のため中止になってしまった。しかし、図書室の整備は大分進んだので、継続していきたい。また図書委員会の活動を活発にしていきたい。</p>	
		本校生徒に求められる知識・技術の修得に向けて各教科・科目が有機的に機能し連携する授業を展開する。	A			
		カリキュラムマネジメントの実施にあたり、各教科等との調整を図る。	B			
	図書室蔵書を充実させ、生徒及び教員の教養を育成する。	各学年や各学科において知識や教養を深めるために有効な図書を選定し、購入する。	A			
		図書委員会を活性化させるとともに、図書室の利用を促進させる。	開館利用時間を工夫し、生徒が利用しやすい環境を整える。			A
			図書館報を発行し、生徒の興味・関心を高めて図書館の利用を促す。			B
委員会活動を通して、本の紹介や希望図書の募集を行う。	A					
保健衛生	健康に対する意識の向上と保健指導の充実を目指す。	健康診断と結果を踏まえた効果的な事後指導の実施。	A	A	<p>コロナ感染症の影響で日程や内容の見直しが多かった。次年度は予定通りに進行できることを期待する。</p>	
		様々な学校行事における保健管理・指導の徹底。	B			
		生徒の実態に合わせた保健だよりの発行。	A			
		学校環境衛生検査の実施。	A			
		保健委員会の活性化。	A			
		地域における関係機関・団体との効果的な連携。	A			
生徒指導	基本的生活習慣の確立 (学校を休まない、時間を守る生徒の育成)	5分前行動、学期毎の皆勤者を増やす等、欠席・遅刻等を減らす指導の工夫	B	A	<p>学校を休まない、時間を守る生徒の育成強化のため、出席状況の改善に向けた取組を今後さらに推進していきたい。</p> <p>地域に愛され信頼される海洋高校生を育成を目標に「挨拶、返事、身だしなみ」の徹底指導を継続し、生徒の主体性やアイデンティティーの育成へと繋げていきたい。</p> <p>特別な配慮が必要な生徒に</p>	
		生徒、保護者、教職員間の報告・連絡・相談の徹底	A			
		生徒指導実践サポート事業による生徒指導体制の充実、情報共有の促進	B			
		さわやかマナーアップ運動を通じた基本的生活習慣の確立、規範意識の高揚・公共マナーの向上	A			
		スクールカウンセラー、特別支援コーディネーターの活用	A			
	規範意識の定着 (地域に信頼され、愛される海洋高校生の育成)	登校時の校門立哨等によるあいさつ・返事・身だしなみ指導の徹底	A			
		授業・集会・式典等における礼法指導の徹底、服装・頭髪等の継続的指導	A			
		校歌斉唱、制服の正しい着用等による愛校心の醸成、帰属意識の向上	A			
		地域や家庭と連携した下校路巡回・列車添乗指導による交通・乗車マナーの向上	A			

別紙様式2 (高)

		関係機関と連携した交通安全講話・SNSマナー講話等の実施	B		<p>対する指導については、職員の共通理解、支援体制の強化、関係機関との連携等を推進し、継続的に取り組んでいきたい。</p> <p>いじめ予防、コンプライアンス等の研修会を定期的実施し、職員の資質向上を図りたい。</p>	
	安心・安全な学校づくり (いじめ等問題行動、体罰の防止)	家庭訪問・面談・教育相談・アンケート調査等によるいじめ等問題行動の未然防止・早期発見・早期解消	A			
		授業、HR活動等におけるSNS安全利用、情報モラル教育の徹底	A			
		教育相談・特別支援教育・いじめ・アンガーマネジメント等職員研修の実施	B			
		日常における生徒理解・生徒観察の徹底と職員間の生徒情報共有の促進	A			
		全職員が品格を持って勤務する。コンプライアンスの遵守	A			
進路指導	地域産業の担い手を育成する。	学科に対応した効果的な企業実習の実施	—	A	<p>本年度の好調な就職内定状況を維持しつつ勤労観・職業観の意識をさらに高めるため進路ガイダンスや企業説明会の充実を図る。また、新型コロナウイルス感染拡大状況に応じ臨機応変に生徒や保護者へ十分な進路情報を提供するとともに、各学科の特性を活かした進路先を開拓する。各学年、各学科と連携し進学・就職に必要な基礎学力や面接指導の強化を図る。</p>	
		本校の特色に則した企業求人の開拓	A			
	早い時期からの進路に関する関心・意欲を向上させる。	進路ガイダンスや企業実習、学年集会等での進路講話を計画的、効果的に実施				A
		就業・進学に向けた学力等を向上させる。	各学科と協力し、就職に向けた試験対策及び面接指導の実施			A
	進路情報の提供ときめ細かな進路指導の実施		各学科と協力し、進学の受験方法に応じた指導の実施			A
		就職先や進学先の受験情報を収集し、対応した受験対策の提案	A			
		各学年での進路ガイダンスの実施と各クラスでの進路講話の実施	A			
		進路の手引きや進路だより、保護者説明会等での進路情報の提供	A			
特別活動	生徒会活動の自主的な運営	生徒による学校行事の主な企画、運営	A	B	<p>部活動の参加率及び活動の活性化がまだ達成できていないので、次年度も継続して取り組んでいきたい。キャリアパス</p>	
		生徒会を中心として、地域イベントや企画に積極的に参加、協力	B			
	部活動の振興	部活動の参加率の向上及び活動の活性化	B			
		部活動の指導者の育成及び講習会への参加	A			

別紙様式2 (高)

	キャリアパスポートの活用・プレゼンテーションの実施	ホームルーム活動でこれまでの「キャリアパスポート」を整理し、自分の興味関心等の個性を理解し、自分の将来の生き方や生活について見通しを持つ。	C		ポートについては徐々に取り組む様にしたい。
企画	地域連携の促進	企業実習の実施により、地域に認められる学校を目指す。	—	B	PTA 総会等、保護者の学校行事への積極的参加を促したい。 地域交流の充実にも力を入れ、住民との交流を深めていきたい。
		地域イベントに積極的に参加し、地域社会との交流を深める。	—		
	学校PRの促進	みんプロの実施により、生徒のスキルアップを図るとともにひらかれた学校づくりを目指す。	—		
		ホームページの充実ときめ細かな更新を行う。	B		
PTA活動の活性化	委員会活動の充実と活性化（参加率の増加）	B			
	広報紙等による保護者、地域住民への広報活動	B			
第1学年	希望進路の実現に向け、個に応じた学習指導内容の充実を図る。	学習内容の精選を進め、生徒一人ひとり実態に即した授業を展開、基礎学力の修得を目指す。	B	A	コロナ禍により、当初の計画通り学校生活を展開できない部分もあったが、基本的な生活習慣の確立ができているが基礎学力の定着にはまだ少し時間がかかり、今後も継続していく必要がある。
	望ましい集団生活を通し、規範意識の高揚を図る。	安心・安全な学校（クラス）づくりを目指し、基本的な生活習慣の確立、生徒指導部との連携およびLHRや学年集会の効果的な実施を行う。	A		
	家庭との連携を密にする。	生徒の行動をよく観察し、早期対応する。また問題行動が見られた場合、すぐに家庭に連絡し、学校と家庭で連携して指導していく体制を確立する。	A		
第2学年	社会人に必要な資質を身につけさせ、基本的な生活習慣を確立する。	欠席・遅刻を減らし、あいさつ、言葉遣い、頭髪・服装について共通認識のもと指導を行う。	B	A	基本的な生活習慣や道徳的判断力等が身につくように指導を継続する。 進路実現に向け、進路に対する意識の高揚や基礎学力の向上を図る指導の充実が必要である。
		HRにおける道徳プラスを実践し、道徳的判断力や道徳的実践力を身につけさせる。	A		
	基礎学力の定着を図り、将来の進路を見据えた授業・実習等を実施する。	授業を通して国語力や計算力等の基礎学力を身につけさせる。	A		
		専門教科等を通して将来の授業に必要な知識・技術を身につけさせる。	A		
		企業実習を通して将来の目標を明確にし、進路選択への意欲を向上させる。	B		
	学校行事への積極的な参加を促す。	有意義な修学旅行の実現を目指し、見学地の地理や歴史等についてよく理解させる。	A		
クラスマッチや体育祭等の学校行事へ積極的に参加させ、参加することの大切さや充実感を体感させる。		A			

別紙様式2（高）

第3学年	生徒の進路目標を明確にさせるとともに、目標の実現に向けた指導の充実を図る。	二者面談・三者面談を実施する。進路指導部や他の部署と協力し、基礎学力や面接力の向上を目指す。また、学年各クラスで協力し、統一的な進路指導を行う。	A	A	基本的な生活習慣の向上をさせる。 進路決定後の学校生活への意識向上。 後輩に対して、進路選択のアドバイスをするような場面を設定する。
	社会人として必要なマナーを身につけさせる。	基本的な生活習慣を向上させ、社会人となる意識を持たせる指導をする。	B		
	最上級生としての自覚を持たせ、率先して学校行事や部活動に参加させる。	特別活動やHR活動を通して最上級生としての自覚を持たせ、学校行事や部活動に積極的に参加させる。	A		

※ 評価規準 A：十分達成できている B：達成できている。 C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない